

美景の島・サントリーニ島で第3回「ギリシヤ・日本基礎の耐震設計、実験・観測、耐震補強に関するワークショップ」が開催される

田蔵 隆（清水建設（株）技術研究所）

誰しもが一度は訪れたいと願うエーゲ海に浮かぶサントリーニ島（写真1）で、標記のワークショップが開催された。抜けるような青空に紺碧の海の色。海面から300mの崖上に並ぶ建物はすべてが白色。陽光とともに変化するこの二つの色の鮮やかさに、心



写真1 エーゲ海を象徴する美景の島：サントリーニ島

を奪われない人はいないはず。日本を含む海外からの参加者にとって、このワークショップへの参加は心躍る憧れの旅でもあった。

ワークショップの開催は、2009年9月22日と23日の2日間。参加者は日本から約20名、ギリシヤから約80名、その他フランス、イギリス、インド、アルジェリアなどからで、総勢120名ほどであった。

このワークショップのギリシヤ側の代表は、アテネ工科大学のGeorge Gazetas教授（ギリシヤ地震工学会会長）である。阪神・淡路大震災の直後、同教授は二度にわたって神戸を訪れ、その後は1999年より毎年、同教授の研究室の学生を連れて来日し、地震被害と復興の現状を神戸の各地で現地教育している。このワークショップの開催は、以前土木学会誌にも記載したが⁽¹⁾、同教授が2004年6月に日本を訪れた際、当時の地震工学委員会の委員長であった後藤洋三氏（東京大学地震研究所特任研究員）との対談で、日本とギリシヤの研究交流を定期的に行おうという提案から始まったものである。

第2回のワークショップは2007年4月に土木学会講堂で開催されたが、その際当時の土木学会会長であった濱田政則早稲田大学教授から、土木学会とギリシヤを代表する学会が正式な協定を結び、将来にわたって交流を図っていきたいという提案がなされた。その後ギリシヤ国内で調整が図られ、ギリシヤ工学会（Technical Chamber of Greece）と調印するに至ったが、その調印に対するセレモニーが今行われ、濱田教授が「地球規模で増大する自然災害と被災軽減に向けた国際協力」と題して記念講演を行った（写真2）。

また、今回のワークショップでは「地震に対する文化遺産の保護と復興」の特別セッションが設けられ、土岐憲三立命館大学教授の特別講演をはじめ、日本とギリシヤ、さらにはインド、アルジェリアなどからそれぞれの国の文化遺産の保護に対する実情と問題点などが報告された。

約50編の論文発表が行われた後、クロージングスピーチは日本側を代表して、家村浩和近畿職業能力開発大学校校長が行い、阪神・淡路大震災の貴重な経験を学び継承させるため、また大きな国際会議にはない親密な二国間交流のためにも、このワークショップの継続的発展を望むというメッセージが述べられた。



写真2 土木学会とギリシヤ工学会との協定書調印に伴う記念講演：濱田政則早稲田大学教授

高度な文明をもった都市国家が、突然の天地異変によって海底に沈んだというアトランティス伝説。この伝説の大陸の所在はいまだ謎のままであるが、紀元前15世紀の大噴火や古代遺跡の発見などから、それはサントリーニ島であったという説に想いを寄せた2日間であった。次回は2011年、日本で開催される予定である。

参考文献

- (1) 田蔵隆・対談 ギリシヤ地震工学会会長 George Gazetas教授が語る、土木学会誌、90巻1号、47～48頁、2005年1月
 (2) 田蔵隆・第2回「日本ギリシヤ・基礎の耐震設計、実験・観測、耐震補強に関するワークショップ」を開催、土木学会誌、92巻6号、107頁、2007年6月